

Ⅱ. 養成校生を対象としたキャリア形成

1. OBOG の現職保育者との交流会

11月18日(土)3限(13:05～14:35)に、午前中保育者研修と茶話会を終えたOBOGの現職保育者18名と、本学子ども支援学科2年生が、幼稚園教育実習事前指導1Aの授業の一環として、交流会を行った。

(1) OBOG 代表・安田奈央教諭(國學院大學人間開発学部子ども支援学科2期生)の講話
まず、OBOGを代表して、学校法人渡辺学園港北幼稚園(横浜市)に在職6年目、子ども支援学科2期生安田奈央教諭が、「子どもの世界や遊びって面白い!—保育職の魅力と実習にむけて」という演題で学生に講話を行った。幼稚園の一日の様子、学生時代の実習前の不安と実習後の達成感について、自身の経験を交えて話した。

また、幼児期の子どもの遊びの魅力と、子どもの興味・関心を生かした遊びの援助について、「恐竜探し」「ポップコーン屋さん」「ぺんぎんランド」などのたくさんの事例を交えて、遊びを通して子どもを育む保育職の魅力について語ってくれた。

(2) OBOG と養成校生とのグループ懇談会

実習直前の養成校生5名程度のグループにOBOGが1名ずつ入り、グループ懇談会を行った。評価者である養成校教員に対してはなかなか相談しにくい実習前の不安や悩みについても、OBOGが自身の学生時代の経験を踏まえて等身大の回答をしてくれたことで、養成校生は大変安心した様子であった。特に、保育現場では数の少ない男性保育者が2名(共に公立保育園勤務)いたことで、男子学生が積極的に質問をしていた。保育職は女性が占める割合が高く、「女性の仕事」というステレオタイプがあることから、男子の養成校生あるいは養成校入学を希望する男子高校生から将来のキャリアに不安を感じる声も聞かれる。男性が保育者としてキャリアを重ね、家庭をもって生活できる社会的にも経済的にも安定した職であるというイメージをもてたことは養成校生にとって大変重要な機会となったこと推察される。

(3) OBOG との交流会についてのアンケート調査

1) OBOG 対象アンケート結果

OBOG との交流会におけるグループ懇談について、OBOG18名を対象にアンケート調査を行ったところ以下のような結果となった(表2.2.1)。

18名中14名が「よかった」、4名が「まあよかった」と回答した。グループによっては学生からの質問があまり出ずOBOGが不安を感じながら話をリードしなければならない部分があり戸惑った様子も見受けられたが、養成校生の不安を聞き、初心に戻ったり実習生が来たときの参考になったりと交流会に参加したことについておおむね肯定的な感想が寄せられた。大学教員が実習事前指導をしたり、外部講師の先生が実習の話をしたりするような理想や建前ではなく、年齢の近い保育者の生の声を聞けることが価値あることとOBOG自身も実

表 2.2.1 OBOG と養成校生との懇談についての OBOG の感想

OBOGと養成校生との懇談会		
1	よかった	自分が学生ならこんなにうれしい機会はないと思う。額面通りではない生の声はありがたい。
2	まあよかった	具体的なアドバイスができたか自信がありませんが、初心に帰れました。
3	まあよかった	初めに学生さんが教えてくれた不安に回答した後、話が盛り上がり、何を聞きたいか不安に思いながら話を続けたから。
4	よかった	これから、頑張ろうと思っている学生の話聞いて、私も頑張っていこうと思いました。
5	よかった	大学生の頃に抱いていた不安を思い出し、実習指導を担当する際の参考になった。
6	よかった	不安に思っていることを聞いて、少しでも自分の話が参考になればいいなと思いました。
7	まあよかった	学生たちに、良いアドバイスができたか分からないが、自分自身の実習や幼稚園教諭として働く自分を振り返る機会になったから。
8	よかった	みんなが不安なことを知ること、自分自身、実習生に対してどう伝えたらいいかも学ぶことが出来た。
9	よかった	学生の率直な悩みを聞いて、自分の実習の時の話や現場に出てから思ったことを伝えることができたことがよかったと思います。
10	よかった	学生の方の悩みに寄り添うだけでなく、自分自身を振り返ることができ、良い経験になりました。
11	よかった	学生の実習に関する率直な思いを聞くことができたから。
12	まあよかった	在学生の力になれたので。
13	よかった	当時悩んでいた自分を思い出しました。 今の自分にできることは少なかったかもしれませんが、話をしっかり聞いてくれて嬉しかったです。
14	よかった	学生側の悩んでいることを聞けたので、実習生が来た時の参考にしたいです。
15	よかった	実習にこれから臨む学生たちの生の悩みをたくさん聞けて、よかったです。
16	よかった	学生さん達の悩みに少しでも助けになれば嬉しいです。
17	よかった	学生の頃を思い出し、とにかく不安だった日々を思い出しました。今思えば考えすぎ！と思うけれど、不安な気持ちもわかるなあと思いました。受け入れる側の職員として、実習生が来てくれることも嬉しいのだと伝わっていたら嬉しいです。
18	よかった	初心に返りました！ 実習生に優しくしようと思いました。

感してくれている様子がうかがえた。また、保育者を目指す養成校生に不安を打ち明けられる先輩の立場として、現在様々な悩みや不安を抱えていても、確実に保育者として成長している自身の姿に気づくことで保育者としての自信や誇りをもてる機会となったと推察される。

2) 養成校生対象アンケート結果

OBOG との交流会におけるグループ懇談について、養成校生 95 名を対象にアンケート調査を行った。OBOG と養成校生との懇談会を行ってよかったかどうかについては「よかった」「まあよかった」「あまりよくなかった」「よくなかった」の 4 件法で尋ねたところ、「よかった」と回答した養成校生が 100%であった。また感想については自由記述が 95 名中 94 名あり、回答への前向きな姿勢もみられた。主なものとして、以下のような回答があった(表 2.2.2)。

特に、同じ大学出身であるため親近感や憧れの気持ちをもちやすかったこと、少人数のグループの話し合いができたこと、年が近い先輩であるため初歩的なことで教員に相談しにくいことも相談しやすかったこと、現場の様子や受け入れ先の視点が聞けたことがグループ懇談のよかった点として挙げられた。またこの懇談により、実習や保育職に対する不安が軽減され、実習が楽しみになった、先輩のような保育者になりたいという気持ちをもてたという意見も多数みられた。

また、今後も保育職に就いている OBOG との懇親会の開催を希望するかという質問に対しては、これも「希望する」「まあ希望する」「あまり希望しない」「希望しない」の 4 件法で尋ねたところ、「希望する」が 85%、「まあ希望する」が 15%であった。また、今後の懇談会のあり方についての要望には以下のような回答が見られた(表 2.2.3)。

OBOG からは話が広がらないグループがある様子がうかがえたが、学生たちからはむしろもっと長く質問の時間(グループ懇談)を取ってほしい、実習前にそれぞれの実習施設に勤める OBOG の話を聞いてみたい、少人数の話し合いがよかった、複数の先輩と話がしたい、実習直前や就職活動前にも聞きたい、という回答があり、OBOG との少人数グループでの懇談は、今後、幼保それぞれの実習指導や就職活動支援に生かせる方法であることが示唆された。

なお、OBOG 対象の保育者研修と茶話会、養成校生との交流会についての事業は、國學院大学ホームページ國學院大学メディア News

(<https://www.kokugakuin.ac.jp/news/389163> : 2023 年 11 月 20 日更新)、「遊育」No. 22 (2023 年 11 月 27 日号)、日本教育新聞(「幼児教育の「職」の魅力を発信 キャリア形成支援へ 大学教員が高校へ赴き講演」: 2023 年 12 月 4 日掲載)、國學院大学学報 729 号(「現職保育者院友対象研修会、現職保育者院友と学生との交流会」を実施)

<https://www.kokugakuin.ac.jp/assets/uploads/2024/01/b4f77abc0ee6855c0ea3511327f97bda.pdf> : 2023 年 12 月 20 日)に掲載された。

表 2.2.2 OBOG と養成校生との懇談会の感想

実際に働いている先輩の話を聞いて、実習に対して、先生になることにに対して不安なことがたくさんあったけど楽しいこともたくさんあるんだなと思えました。私もOG.OBの先輩方みたいな素敵な先生になれるように日々の授業や課題をもっと頑張ろうと思います！
國學院のOBの方から、実際に実習中の大変だったエピソードや実習で意識すべきこと、手遊びや絵本に親しんでおくことの大切さなどを聞くことができたから。実習中、子どもや先生方と上手く関わるができるか不安を抱えていたが、今回先輩方のお話を聞いて、子どもたちの世界に入って、子どもと同じ目線で楽しむことを大切にしたいと実感した。
不安に思っていた点を実際の保育者の方からアドバイスをいただけたため。國學院出身という共通点があったから話やすかった。
現場の声を聞けたり、学校の卒業生だからこそ聞きやすいことが沢山あった。不安だったことを実際に実習生を見てる側の先生が聞いてくれて話してくれることによって、不安でしか無かった実習が、少し楽しみになった。
コロナ禍のお話や就職の際のお話など、同じ大学出身で今同じ時代に勤めている方だからこそ、とてもためになるお話を聞けたからです。
歳が近いこともあってか、楽しみなことや不安なことの思いが一緒でとても初歩的なことも聞きやすかったのもこの機会が頂けて嬉しかったです。また、話しやすかったのもっとお話を聞きたいと感じました。
些細な質問を先生に相談するよりも気軽に質問できて、現場の雰囲気もイメージがしやすくてとても良い時間でした。担当のOGの方が凄く優しく笑顔で話してくださって自分も自信持って今後も頑張りたいとやる気になりました。
少人数でのグループだったのでこの大学で実習を経験して、保育職についている方から実際にお話を聞くことができ先生方には聞きにくいことや、気になっていたことについて聞くことができたため。
ほぼ1対1で自分の気になっていることを聞けたので悩みが解決できた。また、他の人の悩みの相談も聞くことが出来て、とてもためになったと感じる。
とても丁寧に質疑応答してくださり、学生の質問にもそうだね、不安だねとまず共感して下さり少し不安が和らぎました。大学の先生では、年数や経験値の差が大きすぎて質問の答えを聞いても上手くできるか不安になることもありましたが、差が小さく学生に寄り添った回答をしてくださったので実践しやすく、実習への心持ちも持ちやすくなりました。時間が短くてもっとお話を聞きたいと思えるほど充実した時間でした！ありがとうございました。
実際の保育の現場を動画でもお話でもたっぷり見て聞くことが出来て、自分が実習に行き子どもたちと関わり楽しみながら学ぶイメージを具体的に想像することが出来た。実習生としての心構えや姿勢、態度や気をつけた方が良いこと等を少人数グループという形で沢山聞くことが出来、また一つ一つ丁寧に答えを頂いた為、実習への期待と覚悟をしっかりと持つことが出来た。
実習について気になっていることを詳しく教えて頂くことが出来たため。具体的な話を聞くことが出来て少し想像がしやすくなった。大変なことを聞いて少しマイナスなイメージが着いていたが子どもたちと関わるのが楽しみという前向きな気持ちを持っていきたいと感じた。
今現在幼稚園に勤務されている先輩方の生身のお話を聞くことができて、とても有意義な時間だった。今どのような保育をしているのか、実習中の時の生活リズムや本音を聞くことが出来た。また、安田先生がとても楽しそうにお話される様子を見て、こんな風になりたいと、意欲が刺激された。
実際に実習を経験し、また受け入れた先生という視点でお話をしてくださり、どのような気持ちで取り組めば良いのかという心構えができたからである。また、実際の保育様子を見ることができ、活動の様子をイメージすることができたからである。
保育をたくさん経験した先輩方からのお言葉がとても励みになって良かったなと思えました。今の私たちと同じように実習生だった時の気持ちを聞けたり、実習日誌や子どもとの関わり方で不安なことなどのヒントもたくさん聞けたことが本当に良かったと思ったからです。また、分からないことは何でも担当の先生に聞いたほうが自分のためにも良いと言っていたので、そうしたアドバイスを今後の実習に活かしていきたいと改めて思いました。

表 2.2.3 今後の懇談会のあり方

今日は実際に聞ける時間が少なかった為、もっと時間があれば良かったなと思いました。
周りに幼稚園教諭の方や親しい先輩がいないため、お話を聞く機会はとても貴重で、大変ためになった。
今回のような事前指導の機会や、直前に設けていただけると聞きたいことが多くありがたいと思います。
お悩み相談会の時間をもう少し多く取ってほしいです。
いい機会をありがとうございました！！
もっと長い時間質問タイムを取ってほしい。
公立の方、私立の方、一般企業も考えていた方、などさまざまな方からお話が聞けたらとてもありがたいです。
質問や相談ができる時間がもう少し欲しい。
今不安に思うことと、もっと実習について明らかになってから不安に思うことは変わってくると思うので、また実習に近づいた時にこのような会を開いていただけると嬉しいです。
現役で幼稚園教諭をなさっている方のお話を聞けて良かったです。
もっと長時間OB・OGの方とお話をしたいです。
前に先輩方に出て頂いて、グループ以外の学生がした質問を聞ける機会があると良いと思いました。
また、今回で出た質問に対する答えをまとめた資料を作っていただけるとありがたいなと思いました。
また就活前ごろにお話を聞きたいと思いました。
事前に質問や不安なことなどを考えて伝えてあげるといいと思った。
皆の前で発表して質問するのはしにくいグループ別に直接質問する時間があつたから聞きやすかつたし参考になった。こういう機会があると有難いと感じた。
とても良い機会になった。
質問会の時に公立、私立を選べたら少しうれしいなと思いました。
幼稚園、保育園それぞれの実習の前にそれぞれの保育者をされてるOB、OGの先輩方のお話を聞く機会がオンラインでも何でも良いのであったらいいなと思いました。
もう少し質問する時間が多いほうが良いなと感じた。
もっと時間をのばしてほしいです。
少人数のグループでお話を伺うことができ、質問しやすかつたため、今回のように5、6人程度のグループか個人で行いたいと感じた。
少人数での話し合いは、質問しやすくて良かったです。
私は、まだインターンやアルバイトで子どもたちと関わった経験がないので、実習に対する質問しかできなかったからもし次も懇親会が開かれたら実習後の質問をしたいと思いました。
1人だけでなく、複数人の先輩方に相談できる時間があると良いと思いました。
OB、OGの方とグループで話すことが出来A10:A26の時間をもっと増やして欲しいです。また、日が空いたり所要所の動画ではなく、何気ない幼稚園の一日の様子をもっと詳しく見てみたいです。

2. オープンキャンパス

オープンキャンパスは、大学での学びをよりリアルに体験できる貴重な機会である。今回このプログラムに沿って、本学では体験授業とキャンパスツアーを行い、受験生と教員、養成校生との交流を通してより「保育者の魅力」「保育を学ぶ魅力」を発信するようにした。

(1) 概要

8月5日、6日、26日の3回にわたり、キャンパスツアーを実施、8月26日には体験授業も併せて行った。タイムスケジュールと参加した養成校生の概要は以下の通りである。

【当日のスケジュール】

10:00 保育室集合

10:00～10:30 教員サポート学生とツアーの進行確認（図2.2.1）

10:30～11:00 キャンパスツアー参加者対応 保育室で実施

11:15～12:00 学部学科説明会 一般教室で実施

12:00～12:45 昼食休憩

12:45～13:50 キャンパスツアー参加者対応 保育室で実施

14:00～14:45 学科説明会 一般教室で実施

表 2.2.4 担当教員・養成校生

	8月5日	8月6日	8月26日
キャンパスツアー 学科紹介ガイダンス担当 (教員)	吉永	島田	鈴木
保育室責任者(学生)	4年(1名)	4年(1名)	4年(1名)
キャンパスツアー	リーダー 2年(1名)	リーダー 2年(1名)	リーダー 2年(1名)
	3年(4名)	3年(6名)	3年(7名)
	4年(2名)		

キャンパスツアーとオープンキャンパス時の学科説明会は本プロジェクトメンバーである吉永、島田、鈴木が担当をした。

各ツアーには養成校生2名程度が同行し、保育を学ぶ教室（図工室やピアノ室等）を見学した後、保育室に案内をした。1ツアーにはおよそ15名程度の高校生そしてその保護者が参加した。保育室には学科4年生1名が待機し、2～3ツアーに同行した他の養成校生と共に、保育室に集まった高校生と保護者に対し、子ども支援学科の説明や実際、実習に行

った際使った教材等を見せたり演じたりした。高校生には大学での学びが直接伝わる機会となり、養成校生と話したり説明を受けたりする中で、授業やサークル、入試のことなども知ることができた。

また、在學生にとっても、保育者になりたいという強い思いをもって大学を目指した時の自分を思い出したり、大学での実習を含めた学修をふりかえったりするきっかけとなった。保育職を目指す気持ちを思い出し、自身の姿が高校生にとっての憧れの存在となることで、保育職へのキャリアパスをポジティブに捉え直すよい機会となったと考えられる。



図 2.2.1 キャンパスツアーへの説明

(2) 在學生のおもてなし

今回在學生は國學院での学びの一端を示せるものとして、1 年次の基礎演習で作成した「絵本カード」や授業で習ったペープサートやパネルシアターを用意していた(図 2.2.2)。また多くの在學生が、高校生に対し「國學院の特色」を名刺大のカードに手書きし、それを受験生に配った。名刺カードを在學生から渡された受験生は笑顔でメッセージを読んでいた(図 2.2.3)。在學生も生き生きと高校生たちに対応し、きびきび動いて入れ替わり立ち代わり保育室に到着するツアーの受験生に対応していた。高校生が進路を決める際に、こうしたリアルな学びの生活が分かることは重要なのではないかと思った。

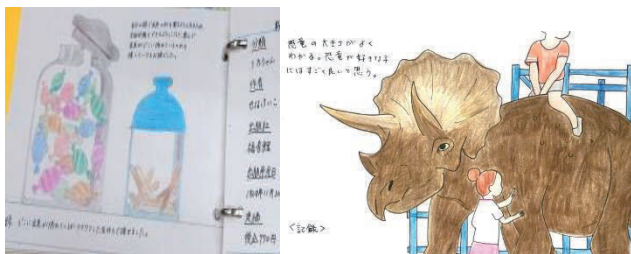


図 2.2.2 絵本カード（在學生が授業で作成）

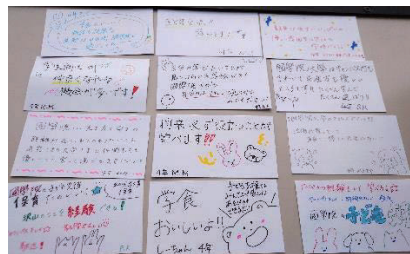


図 2.2.3 名刺カード例

（３）学科紹介ガイダンス

８月５日、６日、２６日のキャンパスツアー時には、本プロジェクトメンバーである、吉永、島田、鈴木より、受験生と保護者対象に子ども支援学科の学科紹介ガイダンスを行った。受験生と保護者を対象にしたので、以下のような内容でまとめた（学科紹介資料）。教員からは授業での学生たちの様子や就職状況、入試の状況について説明した。

（４）オープンキャンパスでの質問

オープンキャンパスでは、キャンパスツアーの中で以下のような質問が教員に対してあった。

Q：ピアノが全くできないけれど大丈夫でしょうか？

A：本学ではピアノで子どもを動かすような保育を幼児教育とっていないので大丈夫です。選択科目として取れる他、実習や就職前に個別に見てもらえるシステムもあります。

Q：男子の進路について

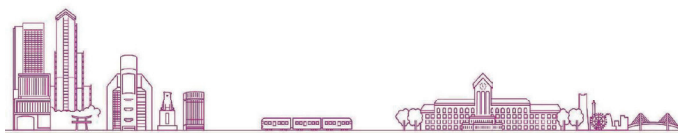
受験生が男子で、保育士をしている姉がいます。給料が低いので男子は厳しいよと言われたが、男子学生の進路は？と聞かれました。

A：男子は公立保育士になる子もいれば一般企業、さらには行政職公務員に受かる子もいます。実習においても楽しく頑張っている姿を頼もしく感じています。

Q：小学校教諭の免許取得について

A：副免許が取れるという説明をしたところ、そのための成績を取るのは大変か？と質問されました。いえ、そんなに高いハードルではないですし、志望者殺到で倍率が高いわけでもありません。架け橋期の説明をし、励ましました。

子どもの明日を創る
子ども支援学科
学科説明



「人間開発」

「人が持つ潜在的な力や可能性を引き出し
伸ばしていく」「人づくりのプロ」



たかい専門性とゆたかな人間性をそなえた
子育て支援のプロを目指す！

子どものよさと可能性を引き出す観察力と理解力
子どもの育ちにかかわる多様な課題にとりくむ力
さまざまな子どもと保護者を尊重する人権意識

どのような学生を期待しているのか

子ども支援学科では、乳幼児を成長の主体としてとらえ、園や地域の環境を構成して子どもを保育する、「幼児教育・保育の専門家」を志す意欲の高い学生を受け入れます

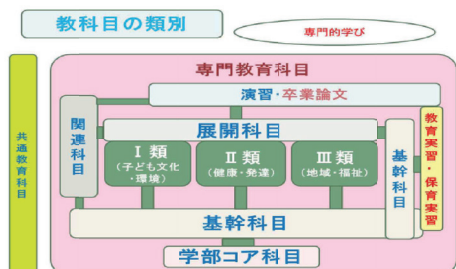
- 幼児教育・保育者に強い志向性をもつ
- 子どもの育ちを理解する基礎学力や学習意欲がある
- 幼児や保育者と関わるコミュニケーション力がある
- 今後の進路について展望を持っている

子ども支援学科のよさ

- 保育に必要な知識や技術を理解し、技能を身につける
- 保育学や心理学、福祉学、教育学などの優れた専門家から指導を受ける
- 保育の現場での実習や体験をふりかえり、分かち合い、学び合う
- 少人数のよさを活かし、教員と学生の距離が近く、目が行き届いている
- 就職にかかわる指導を丁寧に行っている



子ども支援学科のカリキュラムの構成



子ども支援の基本と子ども理解を学ぶ「基幹科目」

- 1年次
子ども支援論/教育の原理/発達と学習/保育原理
幼児と言葉/子どもの保健/社会福祉/子ども家庭福祉 など
- 2年次
教育課程論/幼児と環境/幼児と表現/子ども家庭支援の心理学
乳児保育/障害児保育/保育内容/ピアノ実技 など
- 3年次
保育方法論/保育内容/保育内容総論/教育相談/教育と社会/
特別な教育的ニーズとインクルーシブ社会/社会的養護 など
- 4年次
教育の方法と技術/教育の統計/幼児教育史 など



自分の得意分野を発見し追究する 「展開科目」

Ⅰ類：子ども文化・環境

子ども文化論/リトミック/うたとオペレッタ/色彩とデザイン/
絵本とことば/保育内容研究/あそびと玩具

Ⅱ類：健康・発達

心の科学/子どもの食と栄養Ⅰ・Ⅱ/障害児保育Ⅱ/臨床発達心理/
人間形成の心理学/カウンセリング概論

Ⅲ類：地域・福祉

子ども家庭支援論/社会的養護/子育て支援システム論/子育て支援
フィールドワーク演習/ライフイベント論/子どもと自然体験 活動



科目内容の理解を深め実践力を養う 「演習・実習科目」

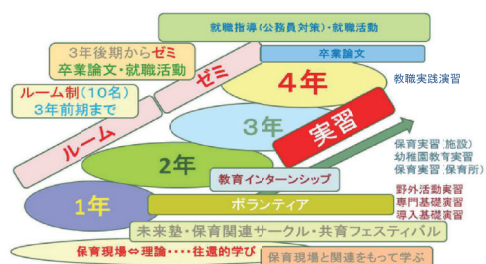
- 専門基礎演習/演習/演習・卒業論文
- 野外活動実習/教育インターンシップ/教職実践演習
- 教育実習（事前・事後指導を含む）
- 保育実習（保育所）（事前・事後指導を含む）
- 保育実習（施設）（事前・事後指導を含む）



充実した施設・設備



子ども支援学科での学び



子ども支援学科の取得可能免許・資格

- ◎ 幼稚園教諭 1 種免許状
- 小学校教諭 1 種免許状*
- ◎ 保育士
- 社会福祉主事（任用）



就職支援について

子ども支援学科生の進路の特徴

- ・公立幼稚園・公立保育所を志願する学生の合格率が高い
- ・半数以上は幼稚園教諭・保育士として、幼稚園、保育所、こども園に就職する
- ・学科の特性を活かして、その他の公務員や福祉施設、一般企業に就職する

【主な就職先】

東京都特別区公立幼稚園、公立保育所、児童福祉施設、私立幼稚園、私立保育所、認定こども園、アシックスジャパン、ヤマハ発動機 など

就職支援について

自分に合った進路を見つけるために、2年後期の段階で**全員の進路面談**を実施します。様々な進路を知り、早い対応が可能です。



就職関連の専門アドバイザーを迎え、一般企業の就職対策や公務員、教員採用対策の面談や講座を開講しています。



全員面談で早期に進路を発見！

プロによる就職対策支援



ルーム制、ゼミ制などの少人数での教育環境の中で、**学部教員による指導**（面接や小論文、実技指導など）を受けられます。



学生個別の状況に対処できるよう、学部教職員による**就職対策・業界分析チーム**が学生への就職支援の企画を検討・実施しています。

教員による細かな対策指導

業界分析・対策講座の企画

西学院大学

詳しくは、学部ガイドブックをご覧ください



【子ども支援学科の情報は…】

- 学部ガイドブック
- 大学案内
- 学部WEBサイト
(Weekly通信、動画)

西学院大学



子ども支援学科での
さまざまな学び

西学院大学

公募制自己推薦 (A0型) 入学試験について

<募集人員14名>

A0型のアドミッションポリシー

- ◆「人間開発」に強い関心をもち、本学部・学科への志向意識が高い学生を求めている。
- ◆牽引役となり、学生生活全般に意欲的に取り組む姿勢を期待する。
- ◆幅広く学ぶ意欲を持ち、基礎学力を持っていることが望まれる。

出願要件

- ◆「子ども支援学科」で学びたいという意欲を強く持っている。
- ◆子ども・子育て支援への関心がある。
- ◆幼児教育・保育の領域に関する専門的な知識や技術を意欲的に学ぼうとする者。
- ◆幼稚園教諭・保育士を志す者。

AO入試日程

- ◆ 出願期間：令和5年10月2日（月）～10月6日（金）
- ◆ 1次選考：書類選考
- ◆ 1次合格：令和5年10月25日（水）
- ◆ 2次選考：令和5年11月12日（日）
- ◆ 2次合格：令和5年11月22日（木）

AO入試選考方法

◆ 1次試験：書類選考

- ① レポート
- ② 活動報告書および添付資料目録、
- ③ エントリーシート
- ④ 活動計画書

◆ 2次試験：小論文試験、面接試験および口頭試問

AO入試2次試験内容

- ◆ 小論文試験（90分）：試験に関する説明（10分程度）を受けた後、小論文（1000字程度）を作成する。
 - ◆ 面接試験および口頭試問（約25分）：大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接、および口頭試問（下記参照）を行う。
- <口頭試問の内容について>
- ① 大学が用意した絵本3冊の中から、1冊を選び黙読する。
 - ② 選んだ絵本等に関しての口頭試問を行う。
- ※絵本は、公益社団法人全国学校図書館協議会第28回（2016）「よい絵本」のリストから、大学が3冊選考する。

AO入試に向けて

1. 子ども支援学科という学科の特性をよく理解していること
2. 子ども支援学科で学びたいという強い意欲があり、幼稚園教諭・保育士を志す者
3. 小論文・レポートの準備と対策（選考のポイントを参照）
4. 日頃から絵本に親しみ、読んでおくこと